

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

繰り広げられる「倒錯者」ならではの感性から目が離せない！
前回の予告通り、A氏の秘策が炸裂する。その秘策とは果たしてどんなモノなのか？驚愕の結果と予想を覆す展開がA氏波乱の人生への序章となる。

秘策

スロットと言えば前回書いたように「アメリカのカジノにあるもの」そういうイメージしかなかった。大きなレバーをガチャコンと下げればリールが回りだし、自然に停止しその出目によってメタルの払い出しが得られるというものである。なのでストップボタンを押す自分の好きなところで停止させることが可能な日本のスロットでは、絵柄が見えれば自由自在に停止させ、大きな利益が得られるものと確信していた。おぼろげながら黙々とリールを適当に止めているのは見えなから適当に押し、偶然揃うのを待っている。そうとしか考えられなかった。しかし私も回っている絵柄が見えると思っていたわけではない。仮に回っている絵柄が見えれば、自由自在に7が揃えられ店は瞬く間に大赤字で経営どころの騒ぎではないと考えたからだ。しかし私にも素人なりの考えはあった。

①回っているリールは見えないにしても、止まっているリールは見える。ならば偶然枠内に7が停止した場合、次プレーで、リールが回りだした瞬間にストップボタンを押せば直ちに停止し、最低1つは7を停止させることができるはずだ。

②リールが1回転するには周期があり、その周期さえわかれば、常には7は同じところで停止するはずだ。
このような誰でも1度は考えるようなことを私は勝ち誇ったように「秘策」としていた。

得策

まずは台の観察。ベルが何枚の払い出しがあるとか、チェリ1がどうだとかは書いてあるにもかかわらず、肝心のスリーセブンに関しては払い出しの表記はなく、なにやら長い説明書きがある。「15+BIGボーナス、ボーナスゲームは12ゲーム行るか8回：」何の事かさっぱり分からなかったが、そのときは別に理解しようと思わず気にも留めなかった。「7が揃いさえすればいい出てくる」そう思っていたからである。

とりあえず1枚投入、1枚では中央ラインのみ有効か。2枚目を投入すると、上段と下段が加えられ有効ラインが3つになった。さらに3枚目を投入すると、斜めの2ラインが加えられ、計5ラインが有効となった。そして考える。それが一番得なのかと。そのときの考え方は次のとおりだ。

1枚あたりの有効ライン数を考えてみると次の計算式が成り立つ。

(有効ライン数) ÷ (投入枚数)
= (1枚あたりの有効ライン数)
1枚投入時
1 ÷ 1 = 1
2枚投入時
3 ÷ 2 = 1.5
3枚投入時
5 ÷ 3 = 1.6666...

実践

私の座った台の左リールには最初から7が止まっていた。早速「秘策①」が使える！そして実践、結果はご存知のとおり。回りだした瞬間にリールは止まることなく、あえなく失敗。しかし失敗はしたものの、その「1」は上段に停止していた。そう、これはまさに「秘策②」の1回の周期であり、「秘策②」の成功ではないか！リールが回りだしたらひたすらボタン連打、ただそれだけで同じ所に停止したのである。しかし2ゲーム目にはあえなく失敗。こうして私の秘策シリーズは簡単に幕を下ろしたのである。しかし落胆はまったくなかった。なぜなら私にはリールが回っている時に何となく絵柄が見えていたからである。1ゲーム回すたびにリールを凝視。ストップボタンを押す前にリールが勝手に止まってしまうことも頻繁にあった。必死にタイミン



王子様が魔女の魔法によってカエルに変えられたというコンセプトの「ニューバルサー」。これは当時のポスター。

「絶対おかしい、いくらなんでも最後のリールで失敗しすぎる。」そう感じ出しているが、そんな矢先に偶然にも並んでしまったのだ。我が人生におけるスロット初ボーナスは右下がりのスリーセブンだった。その瞬間、なんとなく疑いつつあったことなど忘れ「完

成功!?

「絶対おかしい、いくらなんでも最後のリールで失敗しすぎる。」そう感じ出しているが、そんな矢先に偶然にも並んでしまったのだ。我が人生におけるスロット初ボーナスは右下がりのスリーセブンだった。その瞬間、なんとなく疑いつつあったことなど忘れ「完

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。



壁な目押しをしたのだ」と哀れなことに思うってしまうのであった。

しかし喜んでいてる場合ではなかった。7は並び、けたたましいファンファーレが鳴り響いているにも関わらず、メタルが出てくる気配が全くない。私の頭の中はアメリカンカジノだったため、溢れんばかりのまばゆいメタルが出っ放し状態になると思っていたのだ。その時の妙な感覚は今でも記憶に深く残っている。正直、頭の中は「マアクが狂喜乱舞し軽いパニック状態。全くどうしていいかわからない。セツクとおいでメタルが出てくる様子は全くないのだ。誰でも知っているようなことを、極度なテレ屋だった私は、店員に聞くこともできなかつたのだ。全く知らない初体験というものは非常に困ったものである。予備知識もなしに実践してしまったのが間違っていたのだろうか。

軽い自責の念と後悔が頭をよぎりしばらくらうたえていたが、メタルが一向に出てくる気配がないため、思い切つて回してみた。もちろん、こども7の目押しは忘れな。BIG中にも関わらず、ゆっくり時間をかけて7の目押し。周りから見れば、かなり奇妙で滑稽だったに違いない。

5台程挟んだところで打つていたおぼろげしきりにこちらを見てくる。

「なんでこちらを見てくるんだ？もしかし回してはいいなかったのか？なにか間違っているのか？」

そのおぼろげの視線が余計に不安を煽る。もちろんそれは私の行動が意味不明であり、挙動不審だったからに違いないのだが…。7を目押ししながらも着実にボーナスを消化していく。そしてリプレイ図柄が揃う。いわゆるジャックインである。通常時ならメダルを入れなくても、もう1プレイできたのだがこのときはできなかった。そして、なぜか1

枚賭けしかできなかったが、あまり気にすることはなく7を目押し。このときは7が揃ったあととは「こんなゲーム性になるのだろうか」ぐらいにしか考えられなかった。しかしその次のゲームもリプレイが揃う。押しも押しでもリプレイが揃う。リプレイが揃っているのに下皿にはジャラジャラとメタルが出てくる。そして私はどうとう気づくのであった。適当

「あそここの店はスロットを飛ばしている！何々という演出がカセット！」など、どこかのホールでもそういうお客様の声が聞くことができます。はたしてホール側としてはどうなのでしょう？か？実際にあった例を挙げてお話ししましょう。

ホールの楽屋裏 其の式 ◆ストック・演出◆

まずは旧北斗の拳。朝一バトルボーナス当選後、20連チャンを超えたが、ケンシロウが倒れて終了。ストック切れの現象です。実はこの日の前日、ゴト対策部品の取り付け作業を行いました。もちろん、正式にメーカー、組合からの通告のもと認可の下りしている対策部品です。この作業を行うにはストックがなくなってしまう恐れのある行為をしなければなりません。しかしメーカーからの要請でもあり、危機回避のためには仕方のないことだったのです。この件について皆さんはどのように感じますでしょうか？ゴト行為という許されない行為を、ホールが被害を受けるだけのことと考えるのではなく、善良なユーザーの方々にも迷惑のかかる行為と認識し、駆除していきたいと私は思うのです。その結果、副作用として起こったことがストック切れの

に押しもリプレイが揃うことに。そして、このリプレイには払い出しがあることに…。

◆次回予告◆

スロットというモノはA氏が考えるものとは全くの別物だった。しかしここからA氏の（類い希なる変態気質の）本領が発揮されていく！次回「研究」乞うご期待！

症状だったのです。次に鳥唄。BIG当選後、6連チャンしてBIGにもレギュラーボーナスにも当選せずには終了。こちらもストック切れ濃厚です。実はこの日の前日、遊戯台故障のため、ある部品を交換しました。この部品を交換すると、ストックはなくなる」とは知っていました。ですから、できる限りは打ち込みを行いました。しかし結果は以上のようになりました。

このようなことでストックがなくなってしまうことは実際にありません。それは皆様楽しんでいただきたい、不正は許さないという気持ちから起こった現象であることをご理解いただきたいのです。また、その他の理由として考えられるのは「何らかの故障」としかいえません。例えば、テレビゲーム等でセーブデータが消えてしまった！などの経験はないでしょうか？スロット台も精密機器の集合体です。静電気などには極端に弱く、コンプレーターが何らかのバグを起こしてしまう場合もあるわけです。ですので、「ストックを消した」というより「消えてしまった」場合の方が多くなるのです。